



九条の会・いすみ市

会
発
行
人

41号
2025年11月12日
九条の会・いすみ市
運営委員会

高市極右政権成立による憲法9条破壊と戦争国家体制づくりに立ち向かおう

2025年10月25日

九条の会事務局 声明

上記の声明を前提に高市総理の所信表明、外交とトランプ大統領との会談で今後の私たちの生活がどうなるか 他人のことではなく自分のこととして考えましょう。

(全文を別紙にしましたので確認をお願いします)

高市総理の外交は元安倍総理の承継者のアピールでした。最初にトランプ大統領へ軍事費増額の決意を伝えました。米大統領専用ヘリコプターで東京都心上空を飛び米海軍横須賀基地を訪問、米原子力空母ジョージ・ワシントンでは飛び跳ねて大喜びしトランプ氏に腕組みされ有頂天ではしゃぎ、10月26日マレーシア日本人墓地と次に国家記念碑を訪問した感想をSNS・Xに投稿すると、マレーシア国内外でも大炎上し、日本国内からも「恥を知れ!」「日本軍の残虐行為に触れず、"先人への敬意"などと書くのは歴史の歪曲だ」と高市総理への批判の声が多く上がりました。こうした一連の政治姿勢は、アジアの人々の感情を傷つけ歴史認識を無視し、総理としてあるまじき言動であり、日本の信用を失墜させることにほかなりません。

就任早々諸外国への資金援助、日米共同文書でのアメリカへの投資実行し金権政治家を放任し、金持ち優遇・大企業優遇を続けるという方針です。その軍事費を今まで以上の速度で増やし続けることを自主的に行なうというのです。どこからそのお金はわいてくるのでしょうか。必要とされる生活環境を、生活費を、健康を、教育を、学術を、文化を削るしか出所がないです。高市総理は、「世界に誇る日米同盟を一層の高みに」「世界の真ん中で咲き誇る日本外交」といいますが、日本は現在大国でもなければ日本の国際的な文化的・経済的・社会的・学問的地位などは下がり続けています。その中で、軍事力は突出して既に世界5位と言われる軍事大国です。トランプ大統領は来日したヘグセス氏の肩書を国防長官ではなく「戦争長官」とし、「戦争省」「戦争長官」とすると行政命令を出しましたが、日本政府は言われるまま命令に合わせました。米側からの早期の防衛費増額要求にも小泉防衛大臣は「防衛力の一層の強化と防衛費の増額に引き続き取り組んでいく決意を伝えた」と言っています。そんな中、トランプ大統領は核兵器実験の即時開始をするように国防省に指示したと、とんでもない発言が報道されました。あろうことか高市総理は、こんな危険なトランプ大統領にノーベル平和賞の推薦状を出すと公言しました。唯一の被爆国の総理としてあるまじき発言に批判を強めていく必要があります。

戦後80年間、国には富は増えましたが、国民の生活費は大きく削られ続けてきました。特に、安倍政権の集団的自衛権容認閣議決定・安保法制以来、外交での支援約束、日米声明などによる経済約束など諸外国との外交・軍事による出費は急増してきました。金権政治家は大金持ち、大企業、軍事企業、優遇政策を実行してきました。それらの政策の結果、国民は貧しくなり続けました。物価が高騰し、介護施設が潰れ、低賃金が蔓延し、社会的負担は増え続けてきました。AIが労働者に代わり大規模解雇も発生しています。しかしその結果、金権・裏金政治への国民の批判で自民党は参院選で敗退したのでした。高市氏が女性だからといって期待する人もいますが、何をしてきたか、何をやろうとしているかを判断の基本にしましょう。女性が女性の人権擁護者とは限りません。

いま、世界で行なわれている戦争は、80年前日本でも行い、行なわれてきました。戦後80年を迎えた今、その戦争を体験した人たちの話を聴き伝えていきましょう。憲法九条を維持し日本被団協がノーベル平和賞を受賞した日本の平和活動、それらを全く無視するような高市新政権に私たちは一つになり対抗していくことが唯一の方法です。平和を守る、生活を守る、趣味をも守る行動を続けましょう。

2025年11月5日
九条の会・いすみ市 運営委員会



大原町

自由民権運動
千葉県発祥地
いすみ市
2025.10.25

千葉の民権運動は夷隅の
山里より起こ
る！

いすみ市は明治初期、千葉県に於ける自由民権運動発祥の地であり、この地域には私塾で学ぶ人々もいました。1879年2月11日に「以文会」が結成され、「夷隅自由党」を名乗り農村部への支持拡大に、地租軽減を求める署名活動も行いました。政府への批判の高まりで、1884年11月に「夷隅事件」が発生し、以文会関係者が逮捕されるなど官憲による弾圧を受けました。

また、歌人・弁護士として矢代東村は、戦争に反対し闘う人々を和歌にして発表しましたが、東村自身も逮捕され自由と言論を取り上げられることとなりました。

いすみ市の先人たちの血と涙と汗の歴史が、民主主義、憲法の理念に脈々と繋がっていることに思いを馳せて、この地域で九条の活動をする私たちは、市内の縁ある場所へと訪れました。この日はあいにくの雨でしたが、地元在住の和久伸一さんのナビゲーションにより、参加者8名はそれぞれの感慨を深めました。

戦後80年・国連創立80年

『戦争体験を語り継ぐ』
—戦争体験の話しを聴いて
語り合いましょう—

12月20日（土曜日）
午前10時～12時

公民館 第3・4研修室
定員50名 資料代100円
当日受付OK

いすみ市広報12月号へ掲載
申込み・問い合わせ先
9jo.isumi@gmail.com



学習会

以下土曜日

11月22日

2026年

1月31日

岬公民館 研修室
資料代 100円

①二つの憲法

（大日本帝国憲法・日本国憲法）と比較して考える
自民党憲法改正草案・参政党憲法草案を検討する

②九条の会 最新ブックレット「改憲・軍拡と憲法審査会」は毎回ご持参ください。

熊野神社

招魂社跡

三十三観音巡礼道

東村



いすみ市、坂東三十二番・音羽山清水寺から館山市、坂東三十三番・補陀洛山那古寺迄の巡礼道標の刻まれた文字に時代の重みを感じました。同地に巡礼道標があり説明を受けました。

